

# 令和7年度 第4回 千代田区男女平等推進区民会議

---

『（仮称）第7次千代田区ジェンダー平等  
推進計画策定に当たっての基本的な考え方  
（中間まとめ）（案）』  
検討資料

## 目次

1

今後のスケジュール確認

2

第3回区民会議 意見の整理

3

中間まとめ案の検討

## ■検討状況

これまでの千代田区男女平等推進区民会議では、区民会議会長より区長に対し、「提言書」の提出を以て次期計画策定に対する考え方等を示していただいていたが、資料の検討状況に鑑み、男女平等推進区民会議による、第7次計画策定に当たっての基本的な考え方の「中間まとめ」を区民会議の意見として取りまとめてはどうか。

時 期	内 容
【第3回推進委員会】 令和8年2月27日(金)(書面開催) 【第4回区民会議】 令和8年3月9日(月)	・ジェンダーに関する意識・実態調査の結果報告(確定版) ・第7次計画策定に当たっての基本的な考え方(中間まとめ)内容の検討
令和8年度 【第1回推進委員会】 【第1回区民会議】 令和8年5月下旬(予定)	・令和8年度 第6次計画進捗状況報告 ・第7次計画策定にあたっての基本的な考え方(中間まとめ)の報告

## 1 2033年度のゴールイメージ(案)について

- A:  
○普遍的で包括的な内容なので変えにくい印象。  
○「だれもが」とは誰のことなのか。対象と目的を整理するきっかけに。
- B:  
○憲法にもある普遍的なこと。変えようがないのでは。  
○一方、区として「次のステージ」を目指してもよいのでは。
- C:  
○テーマと目標が広すぎる。もう少し狭めたほうがよい。  
○生活の実感につながるものであってほしい。  
○区としての特色、具体的な改善点が見えるキーワードの提示が必要。等

## 2 方向性と基本となる考え方(案)について

- A:  
○男女の違いを意識するのではなく、個を尊重する社会にシフトすべき。
- B:  
○「性別や性的指向・・・」の表現を時流に合わせ、より理解に結び付きやすい表現に変更したい。
- C:  
○女性だけでなく、男性を含む支援の想定が、6年後の社会を考えるうえで必要。

## 3 共通点・まとめ

現行表現は抽象的なため、「誰にとって・何がかわるのか」を再定義すべき。

社会変化や区の特徴を踏まえ、より具体的・実感可能なゴール像(目玉施策等)が必要。

支援対象を性別で固定せず、“困難を抱える人”を包括的に支援

抽象的で実感しづらい表現を見直し、現状と結びつくよう再構成

世代・立場に応じた手法を分け、企業・地域社会全体を巻き込む必要性

求められていること

**実感につながるゴール・施策の設定。世代、性別、立場問わず包括的に支援する体制の構築。**

## 中間まとめ案(計画策定に当たっての基本的な考え方)

### 基本的な考え方①

個が尊重され、違いを活かし合える社会の基盤づくりをめざす

### 基本的な考え方②

困難や暴力から守られ、安心して生活できる社会をめざす

### 基本的な考え方③

男女がともに活躍し、活力を生み出す社会をめざす

提言1

提言2

提言3

提言4

提言5

提言6

提言7

提言8

反映・施策の再構成

現状と課題

区民会議の意見

### 提言におけるキーワード

①：ウェルビーイングの実現、個の尊重、アンコンシャスバイアスの払拭 等

②：ハラスメント・DV・性暴力等の未然防止、排除・生きづらさから守る 等

③：協働、意思決定の場への多様な視点の反映、ジェンダー主流化、ワークライフバランス 等

## 基本的な考え方①

個が尊重され、違いを活かし合える社会の基盤づくりをめざす (資料2-2 P22)

## 基本的な考え方②

困難や暴力から守られ、安心して生活できる社会をめざす (資料2-2 P22)

## 基本的な考え方③

男女がともに活躍し、活力を生み出す社会をめざす (資料2-2 P23)

## 提言1

SOGIや性別といった属性に限定せず、一人ひとりの「**個**」が**尊重され**、違いを前提として生き方や選択が認められる社会に向け、**ウェルビーイング**の考え方を軸とした意識づくりと対話の機会を広げる。

## 提言2

平常時から、災害や社会的リスクが生じた際に誰の声が届きにくくなるのかを想定し、日常の地域活動や防災の取組においても、**違いを前提とした参加と配慮がなされる基盤**を整える。

## 提言3

暴力や排除、深刻な生きづらさに直面した人が、属性にかかわらず安心して相談できるよう、**相談の入り口の分かりやすさ**と、つながった先での**柔軟で切れ目のない対応**を強化する。

## 提言4

困難な状況にある人を「支援対象者」として固定しない支援を実現するため、本人の選択や回復のプロセスを尊重した支援の設計・運用へと転換する。

## 提言5

デートDVやストーカー被害、**デジタル空間を含む新たな暴力の形態**を含め、若年層が被害者・加害者・傍観者のいずれにもならないための予防的な学びと、早期に気づき支え合える地域の関係性を強化する

## 提言6

働くことや社会参加の形が大きく変わることを前提に、性別や従来 of 役割に縛られず、希望すれば経験や挑戦の機会を得られる環境を、行政・企業・地域が連携して整える。

## 提言7

区、区民、企業、地域団体など多様な主体が、それぞれの立場や強みを活かしながら協働し、違いから新たな価値や活力が生まれる関係性を地域全体で育てる。

## 提言8

小さな声や見えにくい課題が意思決定に反映されるよう、**ジェンダー主流化**の考え方を取り入れ、行政の施策立案や地域・企業との合意形成の仕組みそのものを見直し、開かれた参加の回路をつくる。

## 中間まとめ案(基本的な考え方①個が尊重され、違いを活かし合える社会の基盤づくりをめざす)

(提言1) **SOGIや性別といった属性に限定せず、一人ひとりの「個」が尊重され、違いを前提として生き方や選択が認められる社会に向け、ウェルビーイングの考え方を軸とした意識づくりと対話の機会を広げる。**

### 現状の課題

- ・多様な価値観を前提とした、対話や学びの機会の不足
- ・家庭、職場内における無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)

### 提言内容

#### 【区民会議等での主な意見】

○多様性の原点は「この違いを知り、活かしかうこと」であり、「equity(公正)」の視点が重要

○アンコンシャス・バイアスが依然として残っている

#### 【意識・実態調査結果】

○性別にこだわらない考え方が一般化(グラフ①)

○男女の地位が平等になっていると思っている区民は依然少ない。(グラフ②)

・国が掲げるウェルビーイングの理念を踏まえ、ジェンダー平等を生活の質の向上という観点から捉え直す。  
 ・社会教育や、企業研修と連動し、アンコンシャス・バイアスへの気づきを促す取組を推進

### 施策イメージ

区民、企業、地域団体、庁内に向けた情報発信、及び連携(配付物の作成、研修の実施等)

### 【参考】他自治体での取組

機関	分野	内容
国	労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律等の一部を改正する法律(R7.6月改正)	求職者等(就職活動中の学生やインターンシップ生等)に対し、セクシュアルハラスメントを防止するための必要な措置を講じることを事業主に義務付け 等
	「第6次男女共同参画基本計画(案)」策定での検討過程	計画中「1 男女共同参画の推進による <b>多様な幸せ(well-being)</b> の実現(第1分野 ライフステージに応じて全ての人が希望する働き方を選択できる社会の実現)」を新設
東京都	「東京都男女平等参画推進総合計画(案)」改定での検討過程	計画中「自分らしく生きていく 自らが希望する生き方を選択できる社会を目指して」「ささえる、ひろめる 男女平等参画を阻む意識の改革や環境整備」を政策の方向性として設定

(提言2) 平常時から、災害や社会的リスクが生じた際に誰の声が届きにくくなるのかを想定し、日常の地域活動や防災の取組においても、違いを前提とした参加と配慮がなされる基盤を整える。

## 現状の課題

・災害時の避難所運営や支援物資の配布において、性差に応じたニーズの反映が不十分

## 提言内容

### 【区民会議等での主な意見】

- 大規模災害の発生を前提に、男女共同参画の視点からの防災を強化すべき
- ジェンダー視点での防災対策、LGBTQ等マイノリティへの配慮が不足

### 【令和7年度千代田区世論調査】

- 区民が区政における「重要な分野」として挙げた項目のうち、「防災対策」が最も高い割合(73.5%)となった。(グラフ③)
- 「防災対策」のうち、具体的な要望として「避難所機能の充実」が2番目に多い(75.0%)(グラフ④)

- ・平常時から、男女共同参画の視点を取り入れた計画策定や訓練を実施し、避難所運営等への反映を推進
- ・地域、防災、男女共同参画の各分野が連携し、災害時においても、誰一人取り残さない体制の構築

## 施策イメージ

庁内、地域団体(町会等)との連携強化、男女共同参画の視点からの避難所マニュアル作成の継続 等

## 【参考】他自治体での取組

機関	内容
国	○災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～(令和2年～) 女性の視点からの災害対応を進める際に参照できるよう、基本的な考え方、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階において取り組むべき事項を明示。
東京都	○「防災ウーマンセミナー」の開催 初めて防災を学ぶ人を対象に、基礎的な防災知識を男女問わず女性視点から学び、地域や職場での防災活動に活かしてもらうことを目的とする。
台東区	性差等から生じる様々なニーズに対応した物資の確保、避難所運営、防災・災害復興分野における女性の参画推進

(提言3) 暴力や排除、深刻な生きづらさに直面した人が、属性にかかわらず安心して相談できるよう、相談の入り口の分かりやすさと、つながった先での柔軟で切れ目のない対応を強化する。

### 現状の課題

- ・DV、ハラスメント被害者の約半数以上が相談しようと思っていない
- ・相談窓口の認知度の不足

### 提言内容

#### 【区民会議等での主な意見】

○課題解決型の対応にとどまらず、暴力や生きづらさが生じる構造そのものを明確にとらえるべき

#### 【意識・実態調査結果】

○DV、ハラスメント被害者の半数以上が被害を相談しておらず、特に男性被害者は相談率が低い傾向にある(グラフ⑤)

- ・相談体制の周知徹底
- ・区内大学をはじめとした**関係団体との連携強化**
- ・**SNS相談やオンライン相談の拡充**など、利用しやすい相談環境の構築を検討

### 施策イメージ

関係団体への訪問、情報提供、SNS相談やオンライン相談等を取り入れた相談へのハードルを下げる取組 等

### 【参考】他自治体での取組

機関	内容
国	○各都道府県警察の性犯罪被害相談電話につながる「#8103(ハートさん)」 ○ワンストップ支援センターの全国共通番号「#8891(はやくワンストップ)」 相談先の周知を推進
東京都	○一般相談(女性弁護士による法律相談、精神科医師による面接相談) ○LINE相談 ささえるライン@東京、DV専用相談、男性のための悩み相談、外国語によるDV相談
中央区	○ココロ晴れる家 リモート相談員によるチャット相談窓口(月～土、19時～21時まで)

(提言4) 困難な問題を抱える女性を含め、困難な状況にある人に対しての支援を実現するため、本人の選択や回復のプロセスを尊重した支援の設計・運用へと転換する。

### 現状の課題

・生活困窮、性暴力・性犯罪被害、DV・児童虐待等により居場所がないなど、困難な問題を抱える女性等に対しての、体系的な支援施策の不足

### 提言内容

#### 【区民会議等での主な意見】

○課題解決型の対応にとどまらず、暴力や生きづらさが生じる構造そのものを明確にとらえるべき

#### 【意識・実態調査結果】

○「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」を聞いたことがない区民は約55%と半数以上(グラフ⑥)

- ・支援を受けることのできる人への支援内容の周知徹底
- ・**困難な問題を生み出さない社会環境の整備**
- ・一人ひとりの状況に応じて支援内容を柔軟に組み替えられる体制の構築

### 施策イメージ

相談・早期発見体制の充実、自立支援、教育・予防的取組の推進 等

### 【参考】 他自治体での取組

機関	内容
国	○「あなたのミカタ(困難な問題を抱える女性のための支援ポータルサイト)」 必要な支援情報や、各種相談窓口を掲載
東京都	○東京都若年被害女性等支援事業補助金 性暴力や虐待等の被害に遭った又は被害に遭うおそれのある、若年女性に対してアウトリーチ支援、相談・自立支援等を行った事業者に対して、経費の一部を補助。 ○配偶者暴力加害者プログラム事業費補助金 加害者に働きかけることで、加害者に自らの暴力の責任を自覚させるプログラムを実施する団体に対して、事業費の一部を補助

(提言5) デートDVやストーカー被害、デジタル空間を含む新たな暴力の形態を含め、若年層が被害者・加害者・傍観者のいずれにもならないための予防的な学びと、早期に気づき支え合える地域の関係性を強化する

### 現状の課題

・デートDVやデジタル技術を悪用した被害など、新たな形態の暴力の顕在化

### 提言内容

#### 【区民会議等での主な意見】

- 性や人権に関する教育を、予防の観点から体系的に行うことが必要
- デートDVなど、若年層における暴力の定義や問題性について、理解を深めるべき

#### 【令和7年度千代田区世論調査】

- 人権問題で最も関心のあるものは、「インターネットによる人権侵害」が16.8%で、1位(グラフ⑦)

#### 【令和7年における少年非行及び子供の性被害の状況】(警察庁)

- 「SNSに起因する事犯」発生件数は令和元年(2019年)をピークにほぼ横ばい
- 「最初に投稿した者」の74.2%が「被害児童」(⑧)

- ・被害を個別の事案ではなく、**生活困難や孤立等構造的課題**として捉え、**予防教育と早期支援を強化**
- ・子ども・若年層に対する周知・啓発のあり方を再検討
- ・相談しやすい環境の構築

### 施策イメージ

デジタル空間における性被害等の事例周知、講座の実施、地域支援団体の醸成支援 等

### 【参考】他自治体での取組

機関	内容
国	○インターネット上の女性に対する暴力等への対応 関係機関・団体等と連携して、広報啓発を行うとともに、ICTリテラシーやメディア・リテラシーの向上のための取組を推進
東京都	○東京都性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター 24時間365日相談を受付。特定非営利活動法人性暴力救援センター・東京(SARC東京※)と連携 ※Sexual Assault Relief Center Tokyo

(提言6) 働くことや社会参加の形が大きく変わることを前提に、性別や従来の役割に縛られず、希望すれば経験や挑戦の機会を得られる環境を、行政・企業・地域が連携して整える。

### 現状の課題

- ・男性の育児休業取得のための取組を行っている企業は半数程度で、中小企業は特に取組が進んでいない。
- ・女性の就業に対する考え方が肯定的に変化し、経済力を重視する考えが根強いものの、企業や区の管理職に占める女性の割合が少ない

### 提言内容

#### 【区民会議等での主な意見】

- 意思決定過程への少数派(性的マイノリティ等)の参画は引き続き重点課題
- 「様々な経験を積む機会」を性差を理由に制限させない、「希望すれば経験⇔挑戦できる社会」を目指すべき

#### 【意識・実態調査結果】

- 男性の育児参加について、回答した企業の約93%が「参加したほうが良い」と回答(グラフ⑨)
- 女性が“仕事をし続けた方がよい”と考える理由について、“女性も経済力を持った方がよいと思うから”が、全体65.2%、女性は74.4%で1位(グラフ⑩)

- ・**男性の育児・介護参画**を前提とした働き方(意識)への転換
- ・**フレックスタイム制**や**テレワーク**の活用促進
- ・女性のキャリア継続や、産後の再就職支援、スキルアップ支援制度の充実等による**ライフイベントに左右されない多様な働き方の実現**

### 施策イメージ

企業経営層、管理職に対する研修等働きかけ、育児・介護休業奨励金制度の一層の充実、女性のキャリア支援 等

### 【参考】他自治体での取組

機関	内容
国	○女性版骨太の方針(女性活躍・男女共同参画の重点方針) 女性活躍・男女共同参画の取組を加速するために、毎年6月をめどに政府決定し、各府省の概算要求に反映
東京都	○東京都雇用・就業分野における女性の活躍を推進する条例 誰もが生き生きと暮らす社会の実現に向け、雇用・就業分野において、女性はその個性や能力を発揮できる環境の整備を一層推進するための条例

(提言7) 区、区民、企業、地域団体など多様な主体が、それぞれの立場や強みを活かしながら協働し、違いから新たな価値や活力が生まれる関係性を地域全体で育てる。

### 現状の課題

- ・審議会や管理職、また、町会・自治会など地域団体における女性の参画率が伸び悩んでいる
- ・時間的制約や責任の重さへの不安、複雑な決まり・「伝統」が、女性や若年層の新規参画の障壁になっている

### 提言内容

#### 【区民会議等での主な意見】

- 意思決定過程への少数派(性的マイノリティ等)の参画は引き続き重点課題【再掲】
- (区は)住民の多様性が高く、町会・自治会などの自治組織の改革が必要
- 祭事など地域文化の継承と、若い世代・多様な人の参画が必要

- ・意思決定の場への、女性含む多様な人材の参画の促進
- ・高齢化・担い手不足が進む町会、自治会等地域組織へ、女性や若年層を含む様々な人が参画しやすくなる取組・機会の創出

### 施策イメージ

町会に向けた周知・啓発(多様な視点の取入れによる価値の創出)、町会長への研修、女性町会長による講座 等

### 【参考】他自治体での取組

機関	内容
品川区	○「町会・自治会交流会」を開催(令和6年度) 区内町会・自治会長において約12%(令和7年1月1日時点)の割合である女性会長を対象に実施 地区の垣根を超えた交流を通じて、情報や防災ノウハウの共有はもとより、女性の町会・自治会活動への参画を促進させることが目的
埼玉県	○女性リーダー応援講座の開催 地域等で活動できる新たな女性人材の育成、そして現に活動している方々への支援が目的

(提言8) **小さな声や見えにくい課題が意思決定に反映されるよう、ジェンダー主流化の考え方を取り入れ、行政の施策立案や地域・企業との合意形成の仕組みそのものを見直し、開かれた参加の回路をつくる。**

## 現状の課題

- ・ジェンダー平等関連施策は、福祉、教育、労働、防災等多岐にわたる分野に関係するにもかかわらず、共通の視点が横断的に反映されていない

## 提言内容

- ・計画や施策の成果、取組の意義が分かりづらい

### 【区民会議等での主な意見】

○行動計画の対象範囲が広がる中で、構造を整理し、戦略的に重点を示す必要

○OMIW等を核とした横断的・官民共同の展開を強調すべき

### 【ヒアリング調査結果】

○ジェンダー平等の推進には、「社会システム」の変革と「個人の意識」の変革が両輪として不可欠(『調査報告書』P341)

- ・全ての施策に、ジェンダーの視点を組み込む「**ジェンダー主流化**」の徹底

- ・関係部署が共通の認識を持って計画を推進できる仕組みの構築

- ・**成果の見える化**を通じた区民への情報発信の強化

## 施策イメージ

庁内に向けたジェンダー主流化促進の研修実施、「データで見るジェンダー平等の現在地」の更新及び周知継続 等

## 【参考】他自治体での取組

機関	内容
国土交通省	○若手・中堅女性職員による懇談会・地方運輸局長による座談会 ジェンダー主流化に関するアイデア・取組について意見交換を行うため、懇談会・座談会を開催
神奈川県	○かながわ男女共同参画推進プラン(第5次)にて、ジェンダー主流化及びジェンダー統計の活用を位置づけ ジェンダー主流化及びジェンダー統計に係る県職員向けの啓発資料の作成、県及び市町村における普及促進